

総 括

総司会 早川 淑男

続きまして、シンポジウムの部を含めて全体に関する総括をしてみたいと思います。ただいま基調講演をしていただきました嶋村先生に、改めまして本日の総括をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

講師 嶋村 文彦



改めまして、千葉県救急医療センターの嶋村です。本日は大変お暑い中、お忙しい中、かくも多くの方々にご会場にお越しいただきまして、ありがとうございます。

今回の「市民とともに考える救急医療シンポジウム」のテーマは、災害医療ということをご指定いただきました。

最初のシンポジウムの中では、救急救命士の黒川さんより、災害時の救急活動について説明いただき、その中で、災害時は平時と違って、トリアージということや、搬送できない可能性もあるということをご言いただきましたし、佐藤先生の、もし船橋で直下型地震が起きたらというお話の中でも、船橋市立医療センターの活動やDMATの活動について、説明をしていただいたと思います。

最後の梶原先生のお話の中で、病院前救護所についてどうか、災害医療対策本部というのは何をやっているのか、皆さんには、備えとして何を考えてほしいか、ということをお話していた

いただきました。

それぞれのシンポジストの方の文言の中には、優先順位をつける「トリアージ」という文言と、「災害時の備え」というキーワードが示されていたと思います。後半の私のほうの講演に関しては、近年の災害及び災害医療従事者研修等から、CSCATTTという言葉でもって、体系的に災害医療を見ているのだということ、一人でも多くの人を助けるための教育、訓練、育成、そういうものを行っているということをご理解していただいたと思っております。

私の講演の最後のほうでも言いましたように、災害時にはどうしても多くの患者さんが怪我をされたり、病気になったりされます。その皆さんを、医療としては全員を助けることは恐らくできないかもしれません。ただ、やはり多くの人、一人でも多くの人を助けたいので、災害医療というのは、常に創意をもって工夫をしているということをご理解していただいたと思います。

また、災害に遭っても、災害に耳を傾けることが大切です。あとは、災害になったときにはかなりデマなどが出ますので、そういうものではなくしっかりとした情報を得て、適切な行動をとっていただくということが大事であると思います。怪我をされない、病気にならない、という対応していただければと思います。

あとは、一番最初に市長様から言われたように、やはり地域で対応していくことが大切です。もちろん医療に頼っていただいてもいいのですが、対応できない部分もありますので、そこら辺を地域でもって対応していただければと思います。

以上をもちまして私の総括とさせていただきます。

本日はお忙しいところお集まりいただき、最後まで聴講いただきましてありがとうございます。(拍手)

総合司会 早川 淑男

嶋村先生、ありがとうございました。

皆様、本日は長時間にわたりこのシンポジウムにご参加をいただきまして、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、本日の救急医療シンポジウムは終了となります。本日は、各分野においてご活躍されております先生方に、それぞれの立場から災害医療についてお話をいただきました。先生方のお話を伺いまして、大規模災害時において、どのような考えの下で医療が行われているのか、また、我々がどのように行動すべきなのかについて、改めて知ることができました。

市民の皆様の一人一人が適切な知識を身につけ、いざというときに、正しい行動が選択できるようにすることが、自分はもちろん、身近な人の命を守ることにつながるのではないかと改めて感じた次第です。

先生方にご講演いただいた内容につきましては、後日、船橋市のホームページにて公開させていただく予定になっております。

また、冒頭、松戸市長からお話がございましたが、ご自宅に帰られましても、本日皆様が学んだことや感じたことについて、ご家族やお知り合いとの間でぜひお話し合いいただければ幸いです。よろしく願いいたします。

また、今回の開催に際しまして、ご支援、ご協力をいただきました多くのご関係の皆様にご心より御礼を申し上げます。

最後に、ご参加いただきました皆様のますますのご健勝をお祈り申し上げ、閉会の宣言とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。気をつけてお帰りください。(拍手)